

(2) 瀬戸市立にじの丘中学校の実践

ア 研究の経過

月 日	活 動 内 容
4月1日	職員会議にて、今年度の現職教育について説明 小中合同教科部会にて、学習規律について確認
5月20日	中学校教科部会にて、学習評価について確認 中学校教科部会にて、今年度現職教育のテーマに取り組む単元と単元構成についての協議、学習指導案作成について確認
6月16日	「第1回協議会」を受け、校長以下6名で研究の方向性についての相談
6月24日	本校職員への研究内容の周知 中学校国語科教科部会にて、授業マネジメントシートを用いた3年国語の単元構成について協議・検討
7月上旬	授業マネジメントシートを活用した授業実践（3年国語）
夏季休業中	中学校国語科教科部会にて授業マネジメントシートおよび指導案検討 中学校社会科及び外国語科における授業マネジメントシートの作成
9月上旬	振り返りシートを用いた授業実践（3年国語）
9月27日	小学校2名、中学校2名による、現職教育のテーマに沿った公開授業

イ 実践

今年度、本研究協力校で取り組んでいる現職教育のテーマは、「協働する子供たち 集団から仲間、仲間からチームへ ～各教科の授業における協働型課題解決能力の育成を通して～」である。全教科で取り組むことで、協働型課題解決能力の育成を目指す。授業の展開に、手だてをどう組み込み、授業展開や単元構成をどのように組み立てるかが重要となる研究であるため、授業マネジメントシートを活用できないかと考えた。

(ア) 授業マネジメントシートを利用した実践

3年国語「俳句の可能性」「俳句を味わう」で取り組んだ。大きく三つのまとまりで単元構成を考え、「Ⅰ 教科書本文を用いて重要語句についてのまとめ文を作成し、それらを互いに読み合うことで自分の推敲に生かす」「Ⅱ 俳句の鑑賞文を作成し、相互評価することで推敲に生かす」「Ⅲ 自分で俳句を作成し、相互評価による俳句の改良を行う」（資料2）とした。内容は異なるが同じ活動を繰り返すことで、仲間との協働も磨かれ、推敲の技術も高まった生徒がほとんどだった。授業マネジメントシートによるバランスのよい単元構成と、評価から見た授業内容の修正により、協働につながる学びのある授業になったと感じている。単元を通して、評価の方法の改善点も見えた。今回の実践では、子どもたちの実態に合わせることを重視した結果、丁寧になりすぎ、時間をかけ過ぎてしまった。単元全体を通して、目指すべき子どもの姿を追い、めあてを考えていく必要性を感じた。

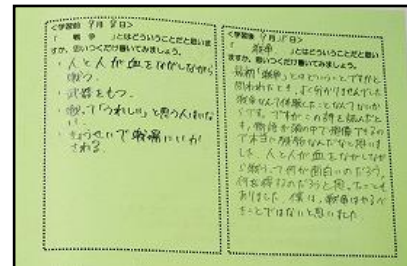
【資料② 生徒が作った俳句】



【資料③ 協働する生徒達】



【資料④ 振り返りシート】



(イ) 振り返りシートの実践

学習前後と、めあてごとに振り返るタイプのものを使用して、3年国語「挨拶」に取り組んだ。

「Ⅰ 作品の背景をつかもう」「Ⅱ 表現に着目し、学習課題をつかもう」「Ⅲ 表現から作者の考えをつかもう」という三つのめあてを設定した。ⅠとⅡは1時間ずつ、Ⅲは、ヤマ場を意識した、3時間共通のめあてである。「学習前」と「学習後」とで、「戦争とはどういうことだと思いますか」という、共通のテーマで自分の考えを書かせた。

めあてごとの振り返りは、目標とすべき姿が生徒に見えやすくなると感じた。書かれた分量は、Ⅲが最も多くなっていたが、これは約9割の生徒に当てはまることであった。ヤマ場を含めた3時間であったため、めあてが自己評価として子どもたちにもイメージしやすいものだったからと考えられる。教員側の評価の意識と、子どものめあての合致が、より妥当な評価に繋がると感じた。

「学習前」と「学習後」については、書く分量が、全員増えていた(資料4)。内容は、授業を通して得た知識や、考えたことに留まっている生徒も多かったが、見た目で「学習が深まった」という自覚を本人がもつことも、主体性を育てる上で大変重要なことだと感じた。

ウ 成果と課題

(ア) 授業マネジメントシートについて

単元を貫く目標に合わせた評価を設定することで「指導と評価の一体化」を図ることができる。この授業マネジメントシートを用いることで、評価の観点を明確にすることができた。結果、単元構成を考える手助けとなり、また、評価のポイントを見落とすことなく授業を進めることができた。

今回の実践では、本校の現職教育のテーマに合わせた手だてを入れ込むということを試みたが、授業マネジメントシートを用いることで単元構成の全体像を捉えやすくなり、手だてをより効果的に打つことができた。

課題は作成時の負担感である。掲載すべき情報が何であるのかを精選し、より簡易にすることで、作りやすさ・使いやすさを追求する必要があると感じた。また、目指す子ども像に近づけない場合、単元構成をどのように修正していくか、という点でも改良の余地を感じた。

次年度に向けて、より簡易で、かつ利便性の高い授業マネジメントシートにするために、シートの在り方をどうすべきかを検討していく。他教科でも実践をし、教科の特性も踏まえた授業マネジメントシートの作成に取り組むつもりである。

(イ) 振り返りシートについて

いろいろなパターンを比較・検討し、振り返りのための「問い」が、どのようなものがよいのか考えていく。授業マネジメントシートと同じように、教科による特性が振り返りシートにも必要なのかという点についても、考えながら、研究を進めていく予定である。